

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		5,298	t-CO ₂
① （温 を 二 室 除 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 排 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		5,298

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量	5,298	t-CO ₂	5,245	t-CO ₂	1.0

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排 出 量		t- CO ₂		t- CO ₂	

（2）目標設定の考え方

大幅なエネルギーの使用削減は困難であるが、夏季早朝に外気導入による予冷、気候状況に応じた外調機への送水温度調整、空調ポンプのインバーター制御を継続して行うほか、エネルギーマネジメントシステム(EMS)を用いたエネルギー消費の効率化を図ることで、対基準年度比1.0%の削減を目標とすることとしたい。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源行動の実践・空調	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温湿度の適正な管理を行い、カーテン、ブラインドも活用して冷暖房効果を高める。 ・夏季早朝に、外気導入を行い冷房効果を高める。 ・空調ポンプのインバータ制御による電力使用量の削減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気及び燃料使用量における基準年度数値の削減に努める。
省エネルギー・省資源行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・院内の照明について、不要な箇所の消灯の励行に努める。 ・各エリアの点灯時間及び点灯方法（間引き点灯等）の再検討を行う。 ・エネルギーマネジメントシステム(EMS)を用いたエネルギー消費の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量における基準年度数値の削減に努める。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--